

社会科学習指導案

横浜市立東汲沢小学校

指導者 吉田 圭一

1 日時 平成 25 年 12 月 4 日（水）5 校時 パソコンルーム

2 学年 第 4 学年 2 組 29 名

3 単元名 「入り海を新田にした吉田勘兵衛」

4 単元について

（１）単元目標

吉田新田の開発について調べることを通して、地域の発展に尽くした先人のはたらきや願い、工夫や努力について理解し、それによって地域の人々の生活が向上したことを考えるようにする。

（２）単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度 【関】	社会的な 思考・判断・表現 【思】	観察・資料活用 of 技能 【技】	社会的事象についての 知識・理解 【知】
①吉田新田が作られた背景や地域の発展に尽くした吉田勘兵衛や先人の働きに関心をもち、それを意欲的に調べる。	①吉田勘兵衛や新田開発に従事した先人たちの工夫や努力、当時の人々の願いについて学習問題や予想、学習課題を考え表現する。	①吉田勘兵衛や新田開発について、必要な情報を集め、読み取る。	①地域の人々の生活の向上に尽くした吉田勘兵衛の願いや働き、努力について理解する。
②それらが人々の生活にどのような影響を及ぼしたかを調べてよりよい社会を考えようとする。	②地域の発展を願ってきた先人の業績と地域の人々の願いや生活の向上を関連づけて考え、適切に表現する。	②調べたことから必要なことを選んで年表や作品などにまとめる。	②新田開発の結果が地域の生活にどう影響を及ぼしたかを理解する。

(3) 単元計画

	主な学習活動と内容 ☆協働的な学び 【】 評価	主な資料●教師の支援◇
1 次 つ か む	1、吉田新田の場所を知り、今と昔の様子のちがいについて考えよう。(2時間)【関①】【技①】【思①】 ○入り海だったことを知り、感想を出し合おう。 ・横浜市の地図で新田のあった位置を確認する。 ・360年前は家が少なく、緑が多かっただろう。 ・人もあまり住んでいなかっただろう。 ・埋め立てた広さはどのくらいなのだろう。 ・スタジアム44個分って言われても分かりづらい。 ○小学校だといくつ分なのか調べてみよう。 ・こんなに広い土地を当時は誰が、なぜ、どのようにして埋め立てたのだろう。 2、江戸時代という今との生活や社会の様子の違いを知ろう。(1時間)【技①】【思①】 ○今から350年前の横浜の様子や暮らし、吉田新田についてお話を聞こう。 ・今は全て陸地であるが、江戸時代は浅い波の静かな入海であった。 ・吉田勘兵衛さんが中心となって入り海を埋め立てた。 ・入海の陸地にほぼ沿う形で2本の川を作った。 ・その為に川に沿って堤と潮除堤(石垣も作った)を長く築きあげた。 ・当時は入り海を埋め立てて田んぼにするとお米がとれて、生活が豊かになるだろうと考えていた。 ・当時の人々は埋め立てを喜んだのだろうか。 ・機械もない時代にどうやって埋め立てたのか。 ・どれくらいの費用と時間がかかったのだろう。	●横浜俯瞰図 ●「吉田新田ができるまで」 ●現在の関内付近写真 ◇吉田新田が現在の横浜の中心地であることに気づくようにする。 ◇自分の学校との位置関係をとらえるようにする。 ◇小学校の大きさを敷き詰めながら、吉田新田の大きさが理解できるようにする。 ◇横浜歴史博物館の学校連携担当(エドューケーター)慶徳先生のお話を聞きながら具体的な課題をもてるようにする。 ●入海の様子の分かる絵図 ●新田が出来た絵図 ◇聞いたことから、必要なことを選んでノートにメモするようにする。
入り海はだれが、何のためにうめ立てたのだろう、 またどうやってうめたてたのだろう		

3、吉田新田の埋め立てについて調べよう。(7時間)

○吉田勘兵衛さんはどうやって入り海のうめたてを完成させたのだろう。【技①②】

「この模型写真から気付いたことを出し合おう」☆

- ・土をかためている
- ・たくさんの人が協力している。
- ・スコップみたいな道具をつかっている。もちろん機械はない。
- ・船で運んでいる。土かな石かな？
- ・当時は手作業が主だった。
- ・海を内と外で分けていたような工事じゃないか。
- ・どれだけ大変なんだろう。

○石や土はどうやって運んだのだろう。【思①】☆

「実際に昔をイメージして体験してみよう」

- ・実際にもっこで土や石を運んでみるととても重い。
- ・とてもじゃないけど、やりたくないだろう。
- ・すごく時間がかかりそうだ。
- ・すごく危険な作業だったのではないかな。
- ・なぜこんな埋め立てしたんだろう。
- ・どれだけの人がかかわったのだろう。
- ・どのくらいのお金がかかったのだろう。
- ・大変だからこそ、工夫していたに違いない。

○新田づくりには、どんな工夫があったのだろう。

- ・新田の範囲を決める堤からうめ立てた。(大堰)
- ・石積みの土台のされた潮除堤が作られた。
- ・堤というものを作って、海を干上がらせる方法で埋め立てた。
- ・埋め立てというよりは干たらしい。
- ・たくさんの土は天神山や大丸山の崖を崩してとったらしい。
- ・やっぱり土は近くからたくさん運んだんだ。
- ・遠くからも出稼ぎで来ていたらしい。
- ・千葉や伊豆(静岡)から運んだらしい。
- ・なぜ、全部埋め立てないで沼を残し、水門を作ったのだろう。
- ・吉田勘兵衛さんについて知りたくなった。

○吉田新田ができるまでを年表にまとめよう【技②】

- ・幕府からゆるしをもらった。
- ・年表を見ると、11年もかかっている。
- ・一度失敗もしている。
- ・完成して「吉田」の姓をもらった。

●「吉田新田ができるまで」表紙の写真

●関東南部の地図

●吉田新田堤普請作業風景想定模型写真

◇実際に道具を使った土を掘ったり運んだりすることを体験させ、手作業と簡素な道具を用いて埋め立てを行った苦労や工夫を実感的にとらえられるようにする。

●横浜の新田と埋立

◇年表から埋め立て工事の大変さや、今に至る発展について俯瞰できるようにする。

●デジタル吉田新田

◇CGやインタビュー、当時の想像図などをたよりに作られたビデオクリップから、必要な情報を見つけ出せるようにする。

◇当時の苦しい農民の暮らし、封建社会のしくみと関連付けながら、深入りしない程度で説明をする。

◇吉田勘兵衛や吉田新田ができるまでを年表にまとめられるようにする。

○吉田勘兵衛さんってどんな人だったのだろう。【思①】

- ・大阪で生まれたから、横浜の人ではない。
- ・そもそも勘兵衛さんは木材と石材の商人だった
- ・一度失敗していても、何度も村人を説得した。
- ・説得が上手だったのかもしれない。
- ・協力者がたくさんいて、力をもった人だったのかもしれない。
- ・でも、吉田新田ができたあとも横浜に住み続けたらしい。「なぜ吉田勘兵衛さんはこの入り海に着目したのだろう。」
- ・古地図を見てみると、上流には船が無い。
- ・大岡川から流れる土砂のためにとても浅く、埋め立てしやすいと気づいた。
- ・ここならたくさんのお米がとれると思ったに違いない。
- ・商人だからもうけようとも思ったのかな？

○吉田勘兵衛さんは大変な思いをしてまで、なぜ新田づくりをすすめたのだろう。【知①】

- ・協力してくれた村人のために諦めるわけにはいかない。
- ・苦しい暮らしをしていた村人たちを開放してあげようとした。
- ・横浜が気に入ったからかな。

○吉田新田が完成した後、人々のくらしはどう変わったのだろう。【思①】

- ・吉田新田ができて、周りの村の生活も変わった。
- ・新田ができたことで、お米がたくさん収穫できるようになった。
- ・お金もすごくかかっている。
- ・山が切り崩されて、土地が広がったことなどで周りの村の耕作地が広がった。
- ・幕府から「吉田」の姓をもらった。身分が高くなった。
- ・勘兵衛さんだけでなく、いろんな協力者が力を合わせたことも忘れちゃいけないな。
- ・今でも当時の新田開発に関係したものが残っている。

●「吉田新田ができるまで」表紙の写真

●改訂前教科書

●わたしたちのよこはま（戸塚区版）

◇根拠となる資料を示して、人物を想像することで、根拠をもった話し合いができるようにする。

●「わたしたちの東」

●「横浜開拓の先駆者吉田勘兵衛」より抜粋

◇吉田勘兵衛本人について知る資料が少ないことから、当時の時代や先人の生き方ややり遂げる想いにつて想像することを大切にしたい。

◇「お三の人柱」についてはあくまでも伝説として深入りしないようにする。

●「わたしたちの横浜」

●周囲の村の石高

◇年表を参照しながら、発展への足がかりを築いた勘兵衛たちのすばらしさや努力に着目させ、先人への敬意や学んできたことの価値に気付かせるようにする。

●日枝神社

●天神山採掘場石碑写真

●大井戸

横浜にはこんなすごい人がいた。学習したことをまとめよう。

3次 まとめ	4、吉田勘兵衛や入海埋め立ての工夫や努力のすばらしさを伝えよう。(6時間) ☆ ○学んだことを振り返ろう 「吉田新田づくりの工夫や、吉田勘兵衛さんたちの努力などのすばらしさとは何だろう」 ・埋め立てるためにいろいろな仕掛けが工夫されていた。 ・機械の無い時代に人の力だけで埋め立てた。 ・失敗してもあきらめずに工事をやり遂げた。 ・多くの人の協力があつた。 ・失敗しても人々を説得した。 ・自分のためだけでなく、みんなのために力をつくした。 ・今の発展した横浜のきっかけを作った。 「だれに伝えますか」 ・慶徳先生に伝えてみよう ・まだ調べ足りない部分もあるから、しっかり調べて発表したい。 ・来年の4年生にも発表して役立てたい。 「内容や方法はどうしますか」 ・あきらめない吉田勘兵衛さんの人柄や信念、当時の人々の願いと努力、完成した吉田新田の仕組みのすごさ、などのテーマに分かれてグループでプレゼンする内容を考える。 ・それぞれの内容にふさわしい発表方法を選ぶ プレゼンソフトによるスライドか新聞に表す 実物や実演など分かりやすく説得力ある方法を工夫する。 ○発表の準備をする。(本時)【技①②】☆ ・グループでプレゼン内容を検討する。 ・プレゼン用のスライドや新聞原稿を作る。 ・役割を分担し、発表の仕方を工夫する。 ○リハーサルをする。 ・説得力があり、分かりやすいプレゼンになっているかどうか話合う。 ○慶徳先生に伝える。(12月16日)【思②】 ・グループでまとめたことをプレゼンする。 ◇吉田勘兵衛や吉田新田の開発のすばらしさは何か出し合いながら、今までを振り返るとともに、学習したことを伝える意欲をもたせられるようにする。 ◇発表の相手を明確にすることによって相手意識をもたせ、専門的立場の方に伝えることで目的意識を高められるようにする。 ◇共有フォルダに今まで使用した資料を保存し、児童が活用できるようにする。 ◇根拠となる資料を提示できるようにする。 ◇ICT を用いて学んだことを分かりやすく伝えるようにするとともに、調べたことが確かかどうか確認できるようにする。
-----------	--

4 次 広 げ る	5、人々のくらしの変化（2 時間） ○埋め立てられた吉田新田のその後はどうなったのだろう。 【知②】〈吉田新田埋め立てその後について、関内地区の現地見学〉 ・田んぼではなく、商業施設や住宅、横浜の中心地となっている。 ○横浜の先人で、他にもすばらしい人はいるのだろうか。【関②】 【思②】 ・高島屋、浅野、ヘボン、パーマーなど	※都市発展記念館・ランドマークタワー見学（12 月 18 日） ●ランドマークタワーからの写真 ●わたしたちの横浜
-----------------------	--	---

5 児童の実態

（1）学びの環境

座席は常に 4 人のグループを組める班とし、そのグループが 2 つ合わさって 8 人の号車となるように配している。4 人のグループの交流や結束を図るために、学習活動のいろいろな場面でグループ学習を取り入れてきた。また、話し合うユニットとしての機能もあり、隣同士のペアトーク、グループでのファシリテーションを行い、やや固定気味ではあるが小さなファシリテーターが育ちつつある。理科や総合学習において協働的な学習を取り入れ、一人ひとりが適材適所で活躍し一つの「ミッション」をクリアしていく学習やプロジェクト型の学習も行ってきた。創立記念式での「ひぐミニクイズ」を通した全校への発表の場、体験学習の楽しさを伝えることを通した 3 年生への発信の場が主な表現の場となり、学習したことを表現する意欲や自信をもつことができた。学級内でもミニプレゼンを行い自分の考えを分かりやすく、説得力をもたせて伝えることに価値を見出し、活動にやりがいをもつ児童が増えてきた。

学級会では、学級目標を作る際の話合い活動において、自分の意見を主張するために、考えの共通点や相違点をはっきりさせ、相手の思いや意図を汲みながら討論ができた。子どもたちだけで折り合いをつけるにはまだまだ力不足な面がある。係活動では、小グループでの活動となるので、建設的妥協点を見出しながら活動するようになった。

自分で課題をもち活動する場面では男女別でのグルーピングにやりやすさを訴えるものの、ついつい慣れ合いとなり課題遂行力や新たな発想に欠ける点が見られる。

（2）教科学習での学びの姿

国語

「新聞を作ろう」では、子ども向けプレゼンテーションソフトのコンテンツを活用し、デジタル新聞づくりを行った。また「手と心で読む」では、同ソフトによるプレゼンを行い、操作に手間取る友達に積極的にアドバイスし、成果物をデジタルで作成する楽しさを味わうだけでなく、相手を意識して分かりやすく伝える学習をしてきた。

社会

社会的事象と身近なものとを結びつけて学習問題をつくり、問題解決学習を図ってきた。資料収集には図書やインターネットだけでなく、地域の人に聞いたり、市内の施設を見学したりといった自分から動いて獲得する情報を活用する児童もいた。自分が集めた資料にはこだわりがあり、最後まで課題を追求する原動力になっていた。一方で情報を分析し再構成する力は十分ではなく、友達の考えを参考にしたり、多角的な視点を加味した分析したりする力が求められる。

算数

ペア学習やグループでの練り上げを重視してきた。習熟場面では「教え合い」として子どもたち同士で解き方やヒントとなることを個々にかかわりながら伝え合う場面を取り入れてきた。少人数クラスでは、数直線や図を用いて分かりやすく伝えることを目標に考え方を説明する機会をもってきた。

理科

観察する視点を明確にして継続的に植物の観察を行った。子どもらしい予想や概念を受け止めつつ、なんとなくではなく、違いと共通点、根拠に基づく科学的事象の理解を重視した。

体育・音楽

グループ発表や個人指導には ICT 機器で撮影した映像を活用した。技能向上には ICT 機器の活用が効果的と考える児童が比較的多い。

6 研究主題とのかかわり

(1) 研究主題

教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン

(2) 授業デザインのとらえ

21世紀型学力であるコミュニケーション力の育成のために、対話、交流、討論、説得・納得といった学習段階が欠かせない。社会科は言語活動を充実させながら思考・判断・表現することを重視したい。

中でも根拠をもとに話し合うこと、考えたことをまとめて交流すること、プレゼン作成に向け内容や表現を試行錯誤すること、発表を聞き合い意見を交流しあうことは、思考力・判断力・表現力を育む機会と考える。

ところが歴史学習をしていない4年生の実態として、社会的事象である先人の努力や工夫に迫ることは容易ではない。そこで本単元では、資料集、絵本、写真に加え、ゲストティーチャーによるお話やデジタルコンテンツ「吉田新田」といったいろいろな資料にふれることが、問題解決学習を支えると考えた。

また、まとめの段階では子ども向けのプレゼンテーションソフトを使用したプレゼンをする。相手に分かりやすく効果的に伝えるためにツールであるとともに、調べたことや学んだことを再構成し、説得力をもたせることができると考えた。

こうした教科の目標を達成するために、児童の実態とつきたい力、教師の願いとを関連付けながら、教授方略、学習条件を工夫することを授業デザインとしてとらえる。

(3) 主題に迫るための手立て

①思考の共有と可視化

小グループで思考を共有したり可視化したりするツールとしてホワイトボードを活用していく。製品によっては資料やワークシートを拡大したものを下敷きに、自由に書き込めるものもある。課題が焦点化され視点が絞られれば、児童の議論がより活発になると考える。

②切実感と相手意識

実際に目にすることのできない歴史的事象にふれて先人の努力や工夫、信念について想像することは容易ではない。そこで、単元の導入とまとめの部分で「横浜市ふるさと歴史財団」エドゥケーターの慶徳氏と連携をとることにした。横浜の今と昔を比較し、新田開発のいきさつや当時の時代背景をわかりやすく解説してもらうことで、自分たちが住むまちについて、より切実感をもって課題と向き合うことができるだろう。そして、自分たちが調べたことが最終的に次の4年生にも役立ててもらうために、発信者の責任として調べて考えたことがより確かなものになるよう、専門的知識のある「慶徳先生に納得してもらうようなプレゼン」を目的とした。自分たちの学習を発表する相手の一人として設定することで相手意識を明確にし、切実感をもった学習が展開できると考えた。

③多様な資料とふれる必然性

本単元では教科書以外の多様な資料の活用なくして学習は進められない。「私たちの横浜」、博物館刊行の冊子「吉田新田ができるまで」などの紙媒体以外にも、YYnet 上にあるデジタルコンテンツ「吉田新田」の活用が中心となるだろう。その際、テキストの文字情報以外にも映像や画像から読みとること、多くの情報から選択することは情報活用能力を育成するチャンスである。本研究会が担うべき部分であると考え。

7 本時について

(1) 本時目標

新田開発の工夫や新田開発を進めた吉田勘兵衛の努力について学習したことまとめ、相手に説得力のあるプレゼンを考える。

(2) 本時展開 (10/13)

学習 形態	学習活動「」発問 ・ 予想される児童の反応、活動	◇教師の支援 ★ICT 活用
吉田新田づくりの工夫や吉田勘兵衛さんたちの努力のすばらしさを伝えよう		
全体	1、活動内容の確認をする 「入海のうめたてや吉田勘兵衛さんのすばらしいところは何だろう？」 ・ 失敗してもあきらめずに工事をやり遂げた ・ 自分のもうけではなく、村人のために新田をつくった ・ 新田づくりに工夫があった 「だれに伝えますか」「どうして」 ・ 慶徳先生 ・ 次の4年生が役立つよう、内容に責任をもたせるため	◇学習してきたことが振り返りやすいよう掲示物を工夫する。 ◇自分が調べた資料やノートを活用できるようにする。 ◇年表や時代背景を把握させ、新田開発に取り組んだ先人たちの信念や努力に気づくようにする。
小グループ	2、発表内容やプレゼンを考える 「具体的な発表内容を決め、説得力のあるプレゼンを考えよう」	

全体	<予想される主なグループ> 【新田開発】 見事な潮除堤 多くの人々の力で機械が無くても工事を完成させた 水門やあえて残した沼の意味 開発の結果米の収穫量が増え、暮らしが豊かになった 【人物】 あきらめない吉田勘兵衛さんの信念 当時の吉田勘兵衛さんは村人や役人をこう説得した 年表などで工事の大変さや勘兵衛さんの努力を伝える 3、グループでスライドの内容や構成を話し合う 「プレゼンする内容をはっきりさせて、関係する資料を選び、原稿や記事を考えよう」 ・スライド構想図や新聞シートをもとに完成を見通す。 ・共有フォルダや資料から使いたい資料を選ぶ。 ・分かりやすい説明になるよう、スライドの言葉を工夫する。 ・説得力ある説明になるよう、話す原稿を工夫する。 ・事実か自分たちが考えたことなのかを分けて表現する。 ・根拠となる資料を示す。 「プレゼンに説得力をもたせるために、どんな資料を使うか、どんな見せ方をすればいいか話し合う」 ・年表を作る。 ・実演する。 4、次時の見通しをもつ ・計画がまとまって、活動の見通しの立ったグループの発表を見合う。	◇単なる予想ではなく、根拠となる資料を関連付けるようにする。 ◇構想ができあがったグループがすぐにプレゼン作りを始めやすいように環境を整えておく。 ★「子ども用のプレゼンテーションソフト」 ◇ホワイトボードツールや拡大したワークシートを使って、俯瞰しながらブラッシュアップできるようにする。 ◇発表内容と方法に着目させながら、次時の活動の見通しがもてるようにする。
----	--	---

(3) 板書計画

吉田新田づくりの工夫や吉田勘兵衛さんたちの努力のすばらしさを伝えよう

<伝えたい内容>

- ・機械の無い時代の道具の工夫
- ・たくさんの人々の協力でうめ立てた
- ・あきらめずに工事をやりとげた気持ち
- ・うめ立て方を工夫した
- ・こした沼の意味
- ・暮らしが変化、米の収かく量

<だれに>

慶徳先生
次の4年生

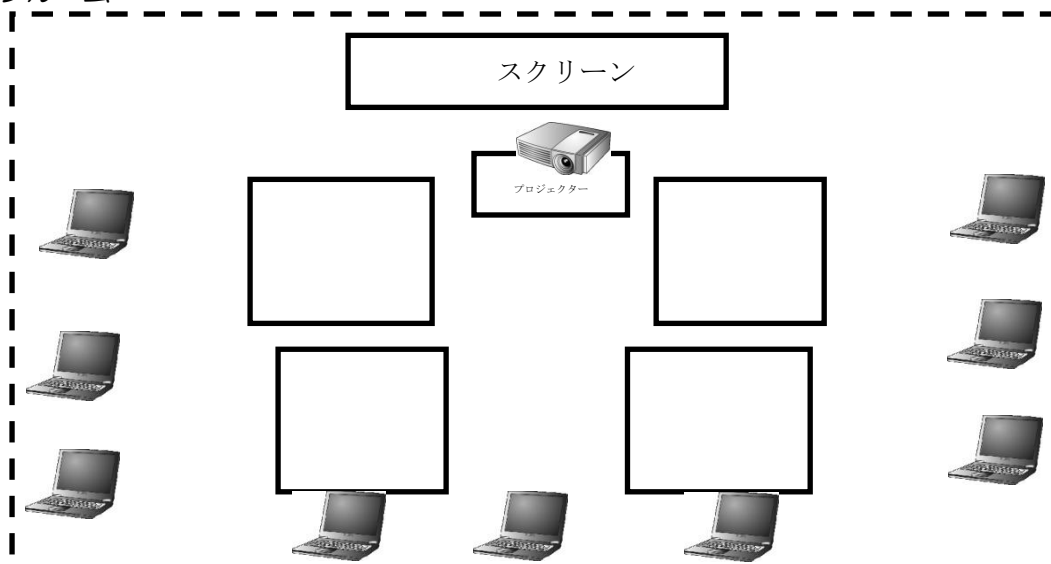
<めあて>

- ・わかりやすく
- ・なっとく
- ・正しいかどうか確かめたい

(当日資料参照)

(4) 場の設定

パソコンルーム



(5) 児童の活動グループ

※最大1班4名でのグループを考えている。

※発表する内容や自分たちの ICT スキルを考えて、効果的・効率的に伝えられるよう発表スタイルを選ぶようにする。

発表のスタイル A：スライド・プレゼン、B 新聞・プレゼン

グループ	テーマ・内容	発表スタイル・人数	
1	新田をつくるために使った材料・道具 新田を作るための工夫	A	3名
2	勘兵衛さんがうまれて死んでしまうまでのできごと (年表から分かること、気持ち)	A	4名
3	吉田勘兵衛ストーリー	A	2名
4	米のとれる量のちがい(表)	A	2名
5	新田が完成した後のくらしの変化	A	2名
6	新田を作るときになぜ沼を残したのか	A	4名
7	新田をつくるのに協力してくれた人	A	2名
8	吉田新田の開発から作り終えるまで	A	2名
9	吉田勘兵衛さんの生涯、新田を作り始めた時の気持ち	B	2名
10	吉田勘兵衛が作った横浜の今と昔の違い (地図での変化など)	B	2名
11	吉田勘兵衛さんの生涯の出来事を、その時の気持ちと 結び付けまとめる (年表)	B	4名